

News Letter from the Kobe Branch

（9月 撫子の花）



朝夕の風の気配に秋を感じる間もなく、記録的な大型台風が襲来、皆さまのお近くにお変わりはありませんか。公的機関からの災害情報に注意して、いち早く避難なさってくださいませ。

さて、7月公開講演会は対面集会として無事に終了いたしました。9月末現在は JAUW 本部奨学生の神戸支部選考を終え、本部選考の結果待ちの状況です。また、11月恒例のサッカー観戦のご案内や2023年度新春ランチコンサートの詳細を協議しております。

10月は本部主催のシンポジウム、11月11日～13日は GWI のセミナーが開催されます。オンライン実施ですので多数のご参加くださいますよう、宜しく願いいたします。

（JAUW 神戸支部長 平井典子）

【神戸支部・本部事業】

1. 本部シンポジウムのお知らせ

「教育・ジェンダー・共生」 ～ユースの視点から見直そう これからの日本～

日時：2022年10月22日（土）10：30～16：00 開催

会場：エッサム神田ホール2号館6階・中会議室1

開催形式：対面（定員70名） + Zoom（定員100名）

申し込み方法：Google フォーム <https://forms.gle/Ziuk4mFLrBokRhBN8>

：E-mail jauw@jauw.org : FAX 03-3358-2889

申し込み締め切り：2022年10月15日（土）振込期限 10月17日（月）

参加費：1,000円（対面、Zoomとも。学生無料）、昼食1,000円

2. サッカー観戦のお知らせ【申込締め切り10月5日（水）】

日時：11月5日（土）14：00 キックオフ

人数：先着順 30名

入場料：5000円（サンドイッチ・お茶付き）

3. GWI 世界大会(11/11~11/13)のご案内

Education Committee 主催 workshop（神戸支部から Kei Foran さん発表）

日時：11月13日（日）午後から90分程度の分科会

（Zoom参加も登録費スイスフラン75ドルが必要）（早割引60フランは10月30日まで）

4. 2023年新春ランチコンサート 1月28日（土）11：30 神戸倶楽部

演奏： 芦屋市交響楽団 室内合奏楽団カプリス

【2022年度本部奨学生応募者の神戸支部選考報告】

奨学委員長 唐島幸子

6月13日、2022年度本部国内奨学生及び神戸支部奨学生応募案内を兵庫県内20大学宛送付。
8月31日必着で以下の応募があった。尚、神戸女学院大学と神戸外国語大学からは辞退の連絡を受けた。

- * 安井医学奨学生応募に2名：神戸大学大学院（医学）、神戸薬科大学大学院（薬学）
- * 一般奨学生応募に3名：神戸薬科大学大学院、兵庫県立大学大学院、兵庫教育大学大学院
- * 神戸支部奨学生応募1名：兵庫教育大学大学院

9月10日ラインを通じて選考、安井医学奨学生2名、一般奨学生2名を推薦決定。

9月13日「神戸支部選考結果」の送り状を添えて、本部奨学生応募者5名の応募書類を本部国内奨学担当宛送付した。

今回、中国とモンゴルからの留学生2名が大学内の締め切り日に間に合わず、大学の推薦を受けられなかったり、大学の奨学担当を通さずに応募書類を直接支部担当宛に送って来たりで、対象にならなかった事例が出てしまったのは大変残念だった。次回には大学側への確認事項を検討したい。

7月 公開講演会 「変化の中の福祉の国スウェーデン」

講師 加勢園子 氏

7月22日(金)午後1時よりリード芦屋で久しぶりに対面での公開講演会を開催しました。

講演は「変化の中の福祉の国スウェーデン」と題し、スウェーデン在住の音楽家・加勢園子さんを講師にお迎えして、ロシアによるウクライナ侵攻やコロナ禍のスウェーデンの実情を詳しく解説していただきました。

永世中立国のスウェーデンがNATOに加盟申請したことは歴史的な大転換となり、自国防衛面ではJAS戦闘機や潜水艦を徴集制とし、防空壕施設は1937年に原子爆弾に耐えられる施設設置が法律に定められ、1955年に世界で初めて「市民のためのヨハネス防空室」（1万人収容可）、1957年世界最大の「市民のためのカタリーナベイル防空室」が完成されています。

少子化対策や男女平等、ジェンダー、年金制度などなどについて、早くから実践されています。

選挙制度は、政党(8)を選び、政党が候補者を決め、地方を重視しています。「自由」と「平等」と「自然」を愛する国、スウェーデンです。

日本とスウェーデンは共にロシアに近く、地形的に似ていること。ロシアがバルト海から北に向かいスウェーデンに侵攻しそうな危機があった話は、ロシアと日本の位置関係から考えると、正に今、そこにある危機として考えさせられました。

加勢講師は参加者の顔を確認しながら、難しい国際情勢を穏やかな口調で進められ、長年スウェーデン在住教育者としてキャリアを積まれた学識に、深く感銘させて頂きました。（三木谷節子）

